

重点項目	体 保健指導（健やかな体の育成）									
重点課題	メディアと上手に向き合うことのできる子供の育成									
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭でメディアにふれる機会が増えることで、ゲームや学習以外の動画視聴に関わる時間も増え、睡眠時間（や学習時間）を十分にとることができない子供や生活リズムが乱れている子供が見られる。 ・昨年度の結果 41.6%→52.5%→66.8% 									
達成目標	自己評価カードの達成率70%以上を目指す。									
方 策	<p>◎「メディアとのよりよい関係づくり」について理解を深め、実践する態度を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のメディアとの関わり方について振り返り、改善するための目当てをもてるようにする。 ・メディアとのよりよい関わり方や、その大切さについての知識や理解を深め、実践への意欲が高まるよう、指導を工夫する。 ・学校保健委員会、懇談会、各種たより等を活用するとともに、「健康づくりノート（とやまゲンキッズ作戦）」を用いて基本的な生活習慣の形成を家庭に呼びかける。 									
今年度の取組	<p>○「健康づくりノート（とやまゲンキッズ作戦）」を活用し、本校児童の就寝時刻やテレビ視聴やゲーム利用の実態を把握した。</p> <p>○毎学期にメディア強調週間を設け、自己評価カード「メディアと上手に付き合おう」に記入した。強調週間前にメディアとの関わり方について学級指導を行ったり家庭でルールを決めたりすることで、実践の意欲が高まるようにした。</p> <p>○2学期に「ゲーム・ネット依存を予防しよう」をテーマに学校保健委員会を開催した。保健委員会の発表や富山大学 准教授 山田正明先生による講演を通して、どのようにゲームやネットと付き合いしていくとよいかを学習した。保健だよりを通して、本校児童の実態や学校保健委員会で得られた情報を伝え、家庭での指導に生かせるようにした。</p>									
結 果	<p>・振り返りカード「メディアと上手に付き合おう」による自己評価の結果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>「家の人と決めたメディアのルールを守ることができた」</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1学期</td> <td>73.3%</td> </tr> <tr> <td>2学期</td> <td>74.3%</td> </tr> <tr> <td>3学期</td> <td>76.1%</td> </tr> </tbody> </table> <p>回数を重ねるごとに、達成率が高まっていった。2年間継続して取り組んだことで、メディアコントロールを意識する子供が増えた。また、保護者の意識も高まっており、子供と一緒に家庭でのルールを考え、励ましながら熱心に取り組む様子が振り返りカードからうかがえた。</p>			「家の人と決めたメディアのルールを守ることができた」	1学期	73.3%	2学期	74.3%	3学期	76.1%
	「家の人と決めたメディアのルールを守ることができた」									
1学期	73.3%									
2学期	74.3%									
3学期	76.1%									
最終評価	A	<ul style="list-style-type: none"> ・メディアと上手に向き合うための素地作りとして、朝活動で情報モラルやメディアリテラシーに関する動画を視聴したり、学校保健委員会でメディアコントロールに関する講演を聞いたりした。学級でメディアとの関わり方について振り返ったり、メディアから離れた時間をどのように使っているかについて情報交換したりするなど考える機会をもち、家庭できまりや目当てを話し合ったことで、生活を見直す子供が増えたと考える。2年間を通して取り組んだことで、子供たちの意識が高まり達成目標に到達することができた。 								
外部評価	<ul style="list-style-type: none"> ・達成率が上がったのは家庭と学校とが連携して取り組んだ成果である。 ・メディアの環境はより低年齢から使い始めることや長時間使用していることから、家庭でときどき画面をチェックしたり、学校でメディアとの付き合い方を知るメディアリテラシーに力を入れたりするなどして、今後も継続して取り組むことが大切である。 									
次年度に向けての課題	<p>タブレット端末学習等で、インターネットを利用する機会がますます増えてきている昨今、メディアとのよりよい関わり方に関して、今後も指導を継続する必要がある。今後、保健指導だけでなく、情報モラルやリテラシーの観点からも、家庭と協力して取り組んでいきたい。</p>									